



平和とくらしを守る北九州市民の会

〒803-0817 小倉北区田町13-21 田町ビル3F
Tel 093-592-5000 FAX 093-571-4346

北九州市民の会

検索



WEB : <http://siminnokai.com>
e-mail : koe@siminnokai.com

市民の会
第36回幹事会

3つの市民運動・要求実現へ

7月4日(木)、北九州市民の会の第36回幹事会が開催されました。満場一致で採択されました活動方針案を以下に転載します。

- ①岸田政権は、大軍拡・大増税による「戦争する国」づくりに邁進しています。このような国の悪政にNOと言えず、トップマネジメントで「稼げるまち」づくりを目指しているのが武内市政です。国の悪政(大軍拡・大増税)にNO!と言える市長を実現し、住民本位の市政をつくるために、今から、市議選対策、市長選対策を強化し奮闘していきます。
- ②武内市政は、赤字の大型開発の検証なしに、「下関・北九州道路」を推進しています。建設予定地の海底に小倉東活断層が存在しています。「下関北九州道路」は安全性、必要性、採算性のない計画であり基本的に反対します。無駄な赤字の大型開発はストップし、税金は、地元経済の振興に使います。
- ③武内市政の「新ビジョン」「市政変革推進プラン」の特徴は、徹底した市民サービスの切り捨てです。市長は2024年度予算で、聖域なき行財政改革で財政を総点検し、財源を捻出するとして、全会計の約3000の予算事務事業を対象に「棚卸し」を行い、1288事業で、約151億円の見直し効果があったとしています。例えば生活保護費の16億円削減から一般管理事務の1000円の削減まで含まれています。徹底した市民サービスの切り捨てである「行財政改革」に反対し、見直しをはかります。

- ④市政を変えるのは、市民の要求運動です。市民要求を汲み上げ、運動化し、議会闘争を通じて、市政の改善につなげます。当面、大きな市民運動に広がっている3つの市民要求運動に専念し、要求実現まで闘い通します。
- ⑤行財政改革の一環としての「公共施設マネジメント実行計画」は、根本的に見直し、公共施設を、住民本位の街づくりに活用し、各区の街づくりを区民の会を中心に自ら考えつくり出す方向を模索します。そのためにも、「区民の会」活動を充実・発展させていく必要があります。

■3つの市民運動と要求の実現

- ①「学校給食の無償化をめざす会」の運動を、子育て世代が核になるように展望して進め、必ず無償化を実現します。
- ②高齢者補聴器購入助成制度の創設を目指し、市民要求運動を高めます。
- ③「初代門司港駅跡の保存を求める会」を支援し、地域文化財の価値を大切に市民運動を広めます。

■北九州地域の軍事基地化を許さない!

北九州空港が特定利用空港に選定され、軍事利用が危惧されます。武内市長は、国の先決事項として、これを承認し、市民への説明を無視したままです。北九州地域の軍事基地化を許さない闘いを興していきます。

若松革新懇が久しぶりに総会を開催



コロナ禍、活動が休止状態でしたが、7月19日久しぶりに総会を開くことができました。高齢や病気などで会員が減りましたが、70%の参加で楽しく話し合うことができました。

県革新懇の竹下事務局長に参加をお願いし「革新懇運動とは」と題してお話をいただきました。革新懇運動はどのような状況の中で始まったか、全国の革新懇の様子、地域住民の要求に根差した運動をとおして政治的な展望を示していくことが必要、「3つの共同目標」を語って根を張った活動を広げていこうと話されました。

若松革新懇の事務局からこれまでの活動を紹介するなかで、地域住民の要求をとりあげ粘り強く運動し、若戸大橋の渡橋料無料化を勝ち取ったこと、PCB処理施設ができることになった時、反対の声を上げ市に監視委員会を作らせ、安心安全なまちづくりに貢献してきたことなどが出され、要求運動の大切さを再確認しました。

これからの活動については、まず知ることが大切、関心ある事で学習会を開き、学校給食無償化、加齢性難聴者の補聴器購入助成を求める運動をはじめ、地域住民の要求に根差した運動に取り組み政治を変えていこうと話しました。次回の世話人会で、今日出された意見に基づいてこれからの取り組みを具体化していきたいと思えます。

2024年 平和のための戦争展 第29回

in 北九州

日時 2024年8月31日(土) ▶▶▶ 9月1日(日)

場所 黒崎コムシティ (八幡西区黒崎/JR黒崎駅隣)

入場無料

8/31-9/1 3階 市民ギャラリー 10時~17時 (1日は16時まで)

- 作品展示
- 北九州平和資料室所蔵戦時遺品など●原爆パネル●広島原爆写真集●パレスチナ問題
 - 高校生の描いた原爆の絵●戦争の準備進む沖縄・九州・西日本の現状●重慶無差別爆撃
 - 平和のための美術展●福岡県反核医師の会●村瀬守保一兵士が撮った中国戦線写真
 - 第5福電丸ビキニ環礁水爆実験被害漁船●中学生のための従軍慰安婦展
 - 北九州にあった「捕虜収容所」

8/31 7階 こどもホール 13時~16時

- 企画イベント
- 実行委員長あいさつ
 - 平和のうたごえ「平和の旅へ」
 - 記念講演テーマ「遺品が語る戦争の真実」講師：武富慈海さん
 - 語り部：杉野慧子さん(86)
 - 小学校2年生の時に八幡大空襲を経験。桃園市民球場に避難するも、街中が燃える熱さで球場内にも熱風が!…助かったものの住む家を失くし、家族は親戚を頼って八幡の街を後に。
 - 北九州アカデミー少年少女合唱団：ふるさと他

9/8 戦争遺跡めぐり 八幡西区~水巻町~若松区

集合日時 9月8日13時
場所 黒崎駅前

申し込みは9月1日回の「平和のための戦争展」終了迄をお願いします。



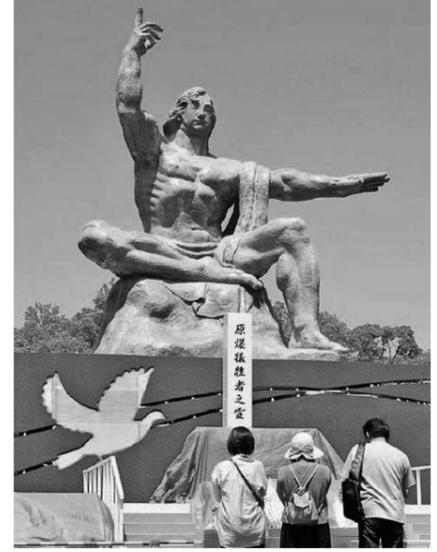
北九州平和資料室 TICO PLACE
一昨年に閉館した北九州平和資料館の理念を引き継ぎ再出発 (若松区在住)

5日、広島市中区
平和記念公園の原爆碑に献花に訪れる人たち



ひろしま、ながさき

被爆から79年



8日、長崎市松山町
式典の準備が進む平和公園を訪れた人たち

広島は6日、米国による原爆投下の惨禍から79年を迎えます。広島市中区の平和公園では市主催の平和記念式典が開かれ、原爆投下時刻の午前8時15分に原爆死没者を追悼し、黙とうします。

ウクライナ侵略を続けるロシアが核の威嚇を繰り返し、ガザ攻撃を激化させるイスラエルの閣僚が核使用を「選択肢」と発言するなど、世界は核兵器を巡り緊張を強いられています。一方、核兵器禁止条約発効から3年が過ぎ、条約への批准は70カ国、署名は93カ国と国連加盟国（193）の半数に迫ります。（8月6日赤旗より）

長崎は9日、米国による原爆投下の惨禍から79年を迎えます。長崎市松山町の平和公園では、市主催の平和式典が行われ、原爆が投下された午前11時2分に鐘の音に合わせ黙とうし、犠牲者を追悼します。

ロシアによるウクライナ侵攻をはじめとする国際情勢や、米国の核抑止論に依存し続ける日本政府の姿勢に、被爆者と市民は怒りと不安を募らせています。（8月9日 赤旗より）

79回目の終戦の日 平和の対案で戦争への道防ぐ

日本がアジア・太平洋戦争に敗北した1945年8月15日からきょうで79年です。戦争がもたらした無数の悲劇を見つめ直し、平和への方策を考える日です。

130年前に始めた日清戦争で朝鮮半島、台湾の植民地支配に乗り出した軍国主義日本は、31年の中国東北部への侵略（満州事変）以降、中国・東南アジア・太平洋地域へと侵略を拡大し、2千万人以上のアジア諸国民と310万人以上の自国民の命を奪いました。

焦土となった日本で、痛恨の思いを反映して生まれたのが、戦力の保持を禁じ、国の交戦権を否定した日本国憲法9条です。

■ 緊張招く9条改憲

ところが岸田文雄首相は「先送りできない課題」として、政権を投げ出す前に、あえて、憲法に自衛隊を明記する9条の明文改憲を打ち出し次期政権に引き継がせようとしています。

この間、自公がすすめてきた「戦争する国づくり」は、一片の閣議決定で憲法解釈を変え、米国に従って自衛隊が海外で戦争する道を開き9条を空洞化させてきました。それさえ踏み越えて9条の制約を正面突破し、「堂々と戦争できる国」にしようとするものです。

9条は、二度と侵略戦争を起こさないという、アジア諸国への約束であり、日本への信頼の礎です。9条改憲はアジアの緊張を一気に高めることとなります。

戦後の原点を否定する道を許すことはできません。

自公政権は中国の脅威を言い募り、「国民の命と安全を守る」として南西諸島に自衛隊のミサイル基地を配備、米軍との共同訓練を強化してきました。同時に、その島々にミサイル攻撃に耐えるシェルターの

整備をすすめ、本土への避難想定訓練を行っています。軍事対軍事の道が住民の安全を守るどころか、かつての沖縄戦のような危険を招く可能性を認めているのです。

■ 日本共産党の提言

いま、戦争の準備ではなく平和の準備が必要です。日本共産党は外交による安全保障に徹する立場から東アジアの平和構築への提言を発表し、国民的・市民的運動を呼びかけています。

▽ASEAN（東南アジア諸国連合）と共に、紛争を平和的に解決する東南アジア友好協力条約を指針とし、排除でなくすべての国を包摂する枠組みを活用し東アジア規模で平和の地域協力を発展させる▽北東アジアの諸問題の外交的解決を図り東アジア平和共同体を目指す▽ウクライナとガザの戦争を国連憲章・国際法にもとづいて解決する一というものです。「正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求」する憲法9条の精神に立つものです。

自衛官が靖国神社に集団参拝し、今年1月には陸上幕僚監部が靖国神社には「国家防衛のために亡くなられた方々」が祭られているという文書を作成していました。「有事」の際の自衛官の給与・手当のあり方も検討課題とされています。

「お国のため」と侵略戦争に駆り出された過去を繰り返してはなりません。

かつて、戦争に反対した日本共産党員は弾圧され、国民は主権者でなく、真実を知りえませんでした。いまは違います。「戦争する国づくり」に向け暴走する自民党政治そのものを終わらせましょう。

※主張（8月15日赤旗）

北九社保協通信

報告・資料集 2024年7月号
7月31日 事務局発行

昨年に続き「熱中症対策」について北九州市と懇談会実施



7月17日(水)に北九州市と熱中症対策について懇談会を行いました。この間、コロナの影響で中止となっていたが昨年、3年ぶりの開催にこぎ着け今年も引き続きの開催となりました。懇談会には北九州健康友の会、健和会、北九社保協3者の代表11名で臨み市側は当局から6名が参加し前回同様、事前に質問・要望事項を申し入れ、その回答をうけて懇談会を行いました。特に国の省令が定まっておらず回答が得られていなかった「熱中症特別警戒ラートの伝達方法」「クーリングシールドの要件」「熱中症対策普及啓発協力団体の要件」について市の対応を確認し、重点的に意見交換を行いました。まず、冒頭に国の省令は1月に決まりその影響で市としての手引きや指針策定がずれ込み、5月議会での承認となった旨の経緯と遅れについての謝罪がありました。参加者からは「社会的弱者である高齢者や乳幼児への熱中症予防の積極的広報と啓発、アラートが出た時の対応と行動」「クーリングシールドとなる市民センター等の公共施設の利便性」「外出時の熱中症対策としての街路樹の整備」「高齢者への日頃からの声かけが重要。宅配業者や郵便局への協力要請を」「不要不急の外出を控えるべきだが、クーラーがない家庭や昨今の物価高騰で使用を控える方も少なくない。経済的支援も必要」などの活発な発言がありました。熱中症対策普及と団体に対しては当局より「国は指定制をしているが、市としては登録制として敷居を下げて多くの企業・団体み協力いただける仕組みとしての」との説明があり、健和会大手町診療所1Fにある「暮らしの保健室」をクーリングシールドとして申請することとしました。市の対応としてはまだまだ不十分な部分もありますが、地域住民を守る行政の立場に立って懇談会で出された意見については真摯に受け止めてもらいたいと思いました。

いとり裁判結審目前 いかんよ貧困福岡・北九州の宣伝行動を実施

7月25日(火)に毎月、定例で市内各地で場所を替えながら実施している「いかんよ貧困福岡」北九州の宣伝行動を若松サンリブ前で実施しました。7月26日(水)のいとり裁判福岡高裁での結審を目前に控え厳しい暑さの中でしたが、当日は生健会・年金者組合・北九社保協から8名が参加し裁判支援の訴えと署名のお願いをおこないました。猛暑のせいか人通りも少なかったですが、ほとんどの方がビラを受け取り署名のお願いに声をかけると対話となる場面もありました。北九社保協からも「長引くコロナ禍や物価高騰で生活が厳しい方はぜひ、ご相談を！」と7.27なんでも相談会」のビラ配布し、宣伝をおこないました。猛暑の中、参加者の体調も考慮し今回は早目に切り上げましたが、福岡高裁結審に向けて充実した宣伝行動となりました。次回、8月はお休みをして9月は定例の第4火曜日9月24日15時から戸畑駅前で行う予定です。

